

## 第2回 倉吉市地域産業振興戦略会議 議事録

【開催日時】平成22年1月29日（金）15時から16時30分まで

【開催場所】倉吉市役所本庁舎3階 大会議室

【出席者】長谷川市長、小椋委員、奥村委員、岩本委員、竹歳委員、能登委員、坂根委員、小野委員、藤本委員、山下委員、安藤委員、森和美委員、黒川委員

【欠席者】山本委員、今井委員

【オブザーバー】倉吉ふるさとプロデューサー 福井氏

【事務局】徳田産業部長

〈商工観光課〉森石課長、谷田課長補佐、宮脇係長、竹田主任、戸田主任

〈農 林 課〉長柄課長

### 【議事の内容】

- (1) 倉吉市地域産業振興ビジョンの策定について
- (2) 地域産業の振興に係る数値目標について
- (3) 倉吉市地域産業振興ビジョンに係る戦略及び取り組み

●第2回戦略会議から小野委員が座長となり会議を進行。事務局から(1)～(3)の説明を行った後、委員から意見・提案を受ける。時間の関係上、十分な意見交換が出来なかったため、事務局より意見書を作成。委員へ手渡し、ビジョンに関する意見・提案等の提出を依頼する。以下、提出された意見書を含めた意見を記述。

#### (1) 倉吉市地域産業振興ビジョンの策定について

##### 【主な意見】

- ・ビジョン策定後は、ビジョンを具体的に推進していくための実施計画（アクションプログラム）の作成が必要。

#### (2) 地域産業の振興に係る数値目標について

##### 【主な意見】

- ・「雇用自立度」「市民所得指数」というシンボリックな数値目標とは別に、毎年、ビジョンの成果が評価できるような目標値等を決めておく必要。
- ・雇用自立度は国勢調査から算定するため、数値の確認が5年に1回。毎年のチェックができるよう、補助的な指標の設定が必要。

#### (3) 倉吉市地域産業振興ビジョンに係る戦略及び取り組み

##### ●方向性1「製造業への重点的な支援を行う」

## 【主な意見】

- ・産業振興は先ず「農業」を主軸に置き、食品加工や観光などへ波及させることが必要。  
これからは、農業を医療・教育・新エネルギー産業などと関連させて、地域産業の活性化を図ることが必要。
- ・倉吉市の地域産業振興の取り組みとして、この取り組みであれば、他市に負けないというようなものが欲しい。例えば、豊富な農産物を活かした取り組みなど。地域産業の振興の方向性は全て関連性があり、総論としては良い。
- ・方向性として、「にぎわいのあるまちづくりと商業振興」を加えてはどうか。
- ・既存企業への増設支援は、企業の増設ありきの考えではなく、先ずは既存企業のニーズ把握をすることが必要。
- ・「製造業への重点的な支援を行う」→「ものづくり産業の振興」へ変更してはどうか。
- ・今後の取り組みとして、「ものづくり道場の活用」「高付加価値製品の開発促進」「地産地消（商）の推進」を入れてはどうか。

### 「ものづくり道場の活用」

鳥取大学では、県内に「ものづくり道場」の設置を進めている。「ものづくり道場」は、地域で子ども達にもものづくりや科学の楽しさを伝えることが出来る指導者を養成するとともに、科学技術理解の裾野を広げるネットワークを構築するための拠点として整備するもの。中部地区に「ものづくり道場」を設置し、地域と関係機関が連携しながら科学技術理解増進活動を推進するため、H22.1.20に「中部ものづくり運営協議会」が設置されている。

### 「高付加価値製品の開発促進」

製造業の場合、付加価値の高いものでなければ、国内での競争に勝てない。付加価値の高い製品を製造するための支援を行う。

### 「地産地消（商）の推進」

地元で生産されたものを地元で消費することが、地域内の産業活性化につながる。

- ・鳥取県中部の農産物は、種類、量ともに豊富だが、そのほとんどが生鮮のまま都会の消費地に送られている。生鮮のままでは、他地域との競争も激しくなり、販売価格が市場価格にも大きく左右される。そのため、農産物に付加価値を高める食品加工産業の育成が必要。
- ・積極的な新規企業誘致の促進、既存企業の増設支援は継続して欲しい。企業立地促進補助金の要件緩和（投下固定資産額、新規雇用者数の引き下げ）、補助金額のアップを図る。

- ・「鳥取県エコカー研究会」「鳥取県次世代電気自動車共同研究協議会」に参加しており、製造業関連の企業誘致に結びつけできないか。
- ・企業誘致については引き続き地道な活動が必要であるが、企業立地促進補助金による資金的支援策や固定資産税等の税務的支援策など、従来以上の大胆なメリットを打ち出さなければ、企業誘致の実現は難しい。
- ・企業誘致は業種、企業規模、先進分野にとらわれず取り組んでもらいたい。島根県川本町では廃校にネット古本店を誘致している。

## ●方向性2「地域資源を活かした観光業の振興」

### 【主な意見】

- ・倉吉市の観光客が増えても、団体客を受け入れる食事処がないため、滞在時間が短く、外貨獲得につながらない。滞在型観光メニューを作ることで、宿泊・飲食業などへの波及効果が見込まれる。今後は、他市の観光団体と連携を図り、観光情報の共有化や情報の共同発信をして、広域的な取り組みが必要。
- ・高校駅伝では他県から地方に選手やその父兄、学校関係者など、大勢の人が来る。このチャンスを活かし、宿泊・観光・農産物PRを組み合わせることで、観光の振興や農産物の販売促進が可能となる。
- ・子供連れの観光客が観光しやすいよう、託児機能を持ち合わせた環境づくりを行い、観光客誘致を図る。
- ・地域の観光資源（歴史、文化、自然）、伝統産業（倉吉緋・陶磁器・竹工等）を活用した滞在型の観光メニューを開発する。
- ・米子市周辺では、DBSクルーズ、アジアナ航空を利用した海外の観光客が増えている。本市においても、海外からの観光客を受け入れるハード整備（看板等）や観光メニューの開発が必要である。
- ・倉吉市内の観光資源の見直しを行い、赤瓦周辺の観光客が市内全体を観光できるような体制づくり。市内の都市公園等（無料で遊べる公園）や農産物の直売所、宿泊施設、食事処の紹介マップをつくり、観光案内所でPRすることで、長期滞在観光につなげる。同時に市内の市民にも同様のPRをすることで、意外と知られていない地区の公園で遊ぶ子供連れの市民が増え、地域内のつながりが出来る。

- ・体験型ツアーなど大変良い企画をしているが、十分にPRできていない。ホームページの作り方ひとつでインターネットのアクセス件数も増え、全国的にも注目を浴びることが出来る。ホームページの作成を外部の民間業者に委託してはどうか。
- ・三朝温泉、関金温泉の旅館等と連携した長期滞在型旅行プラン、例えば、健康プラン（長谷寺めぐりやウォーキング等）、ダイエットプラン、癒しプランなどにより、観光客が倉吉に来る目的を明確に打ち出してはどうか。
- ・昭和風の倉吉の町並をPRする方法として、映画ロケ地として使ってもらえるよう映画会社への売り込みをしてはどうか。NHKの朝ドラで、マスコミに絡めると爆発的に観光地として注目を集める。
- ・食品加工施設と観光を組み合わせた観光メニューづくり。一連の工場が見学できるコースをつくり、ジュースや炭酸フルーツ、コロケ等が試食できるようにするなど、最終的に商品を購入してもらおう仕組みを作ってはどうか。

## ●方向性2「農商工連携による新産業の創出」

### 【主な意見】

- ・新商品や農産物の販売促進の取り組みを強化していく必要がある。
- ・規格外の農産物の有効活用や食品加工を行うためには、原材料をストックする必要がある。特に、カット野菜の製造などは、地産地消と新たな事業につながるため、民間ベースではなく、公社として取り組むべきである。
- ・新産業を創出するための全体的な取り組みの中で、プロデューサーを配置してはどうか。
- ・農山村地域との連携（地場産業の育成）  
関金町の中山間地における休耕田畑の活用（休耕地と活用希望者とのマッチング）、特産品の生産及び販売、集落外交流・移住受入の推進、農産品や農産加工品・伝統工芸品のブランド化と高付加価値化。
- ・食品加工工場として、関金町の空き工場を活用してはどうか。工場の延床面積が大きく、付属建物や新しいボイラーや乾燥室がある。1級河川沿いであり、伏流水も十分にあると考えられる。
- ・国内の大消費地に農産物を輸送する場合、コスト面で不利。そのため、農産物の加工を

施し（高付加価値化）、国外に輸出してはどうか。その場合、DBSフェリーのコンテナを利用した農産物の輸出を支援してはどうか。

- ・ 市施設の燃料を木質ペレットに替えるなど、エネルギーの地産地消を図りことにより、ペレット製造だけでなく、林業の活性化も期待できる。また、低炭素社会志向の活動としてもアピールできる。
- ・ 4月から稼働する「くらしよし市場」（新産業共通基盤）は取り組みとしては面白いが、このネーミングでは、ホームページへのアクセス件数が伸びない。例えば、「田舎」「食材」「自然」「新鮮」などのキーワードを使い、アクセスし易いホームページ作りが必要。
- ・ 現在成功している商売は、「限定品」「自然・健康・癒し」「他にない品」であり、インターネット上で田舎に居ながら、いかに全国販売できるかがポイント。インターネット販売には、すばやい物流（全国発送するにも運賃が安く、素早い輸送手段）とのコラボが不可欠である。